



広報

なは

2024年(令和6年) 10月
第885号 毎月1日発行

市民の友

発行：那覇市 〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号 ☎(代表)867-0111 印刷：株式会社池宮商会 配布：那覇市シルバー人材センター



広報紙
アンケート
実施中▲



実施期間 10月31日(木)まで

多様で寛容なつながりがあり

お互いの違いを尊重できる

社会を築くために—



皆さんも、お住まいの小学校区において、ゆるやかに地域とつながり、ともにまちづくりを進めていきませんか。豊かな日々をつくる新たな出会いがあなたを待っています。



那覇市長 知念 覚

那覇市が掲げる「協働によるまちづくり」の根幹をなし、地域の基盤となる「コミュニティが」小学校区まちづくり協議会です。そこでは地域の皆さんが集まり、地域の安全安心やそのまちの未来について日々話し合いを重ねています。日々の暮らしの中でちょっとした助けが必要となるときなど、住民が気軽に相談でき、場合によっては行政や専門機関と連携し課題に対処することもある身近な存在です。

ゆるやかなつながりで豊かな日々を

那覇市の人口と世帯
※()内はうち外国人
2024(令和6)年8月末現在

● 総人口 313,564人(7,412人)
男 151,756人(3,799人) 女 161,808人(3,613人)
● 世帯数 160,598世帯 (5,335世帯)
住民基本台帳人口の内訳(外国人)



Catalog Pocket

カタポケ iPhone / Android

無料
Free App



You can read this city newsletter in 10 languages.

FOREIGN
RESIDENTS
PORTAL



#なはとぴ

あなたが
見つけた

なは

募集中!



【沖縄の肝心】

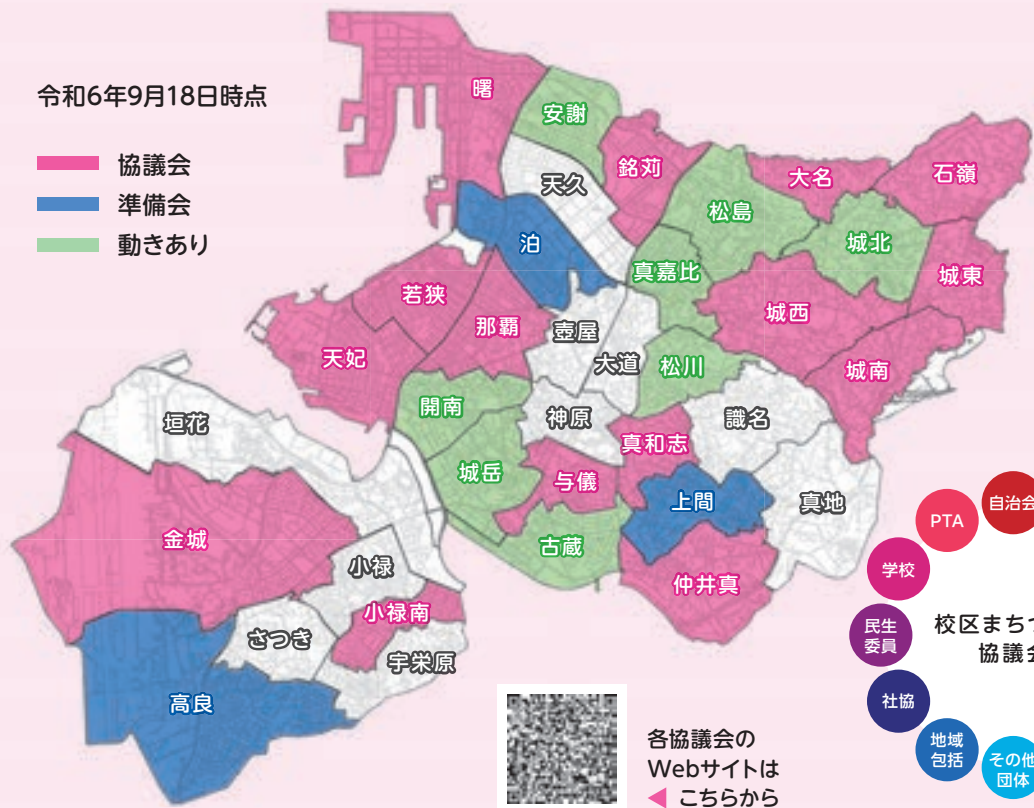
なら 習てい下手んちあみ

【意味】 習って一生懸命努力をすれば上手になる

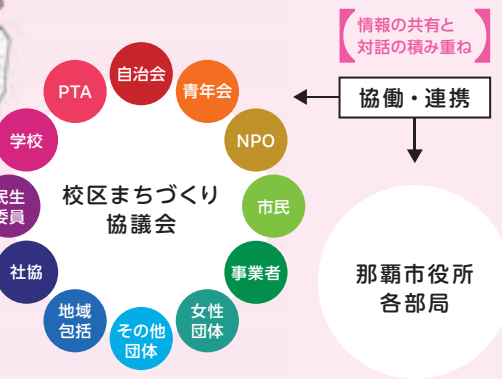
ゆるやかな つながり 作りませんか？

令和6年9月18日時点

- 協議会
- 準備会
- 動きあり



近年、人口減少や少子高齢化、生活スタイルの変化など社会の状況が大きく変わり、地域における課題が多様化・複雑化し、人々の心の触れ合いや繋がりが薄れてきたと言われています。こうした中で、人々の交流を深め、活力に満ちた地域社会を築くために、地域コミュニティの新たな形を模索し、市では、平成23年より小学校区まちづくり協議会の立ち上げを開始しています。



「小学校区」をまちづくりの一つのエリアとし、校区内で活動する様々な関係主体がゆるやかにつながり協力し合い、地域の安全安心な暮らしを守るため、地域課題の解決に向けて取り組む組織です。

小学校区
まちづくり協議会

どの地域も

最初は一人の思いから
はじまっています。

興味のある方は
こちらから



「これくらいなら
できる」を持ち寄っ
て一緒にまちづく
りしませんか。

現在、問題なく活動できている地域でも、20年、30年後には活動が維持できなくなっているかもしれません。未来を見据え、今のうちに地域のつながりを強め、地域が一丸となって対応できるようにしておく必要があります。仕事や子育てで頻繁に活動できなくても大丈夫です。地域のみながゆるく繋がるのが大切です。みなさん一人ひとりの

一人ひとりが主役

まちづくり協議会推進課では、準備会・協議会を対象に補助金を交付し、組織運営をサポートしています。また、協議会設立に向けた準備会の手伝いなどの、相談・支援を行っています。

協議会 03

ゆるく繋がり、無理せず、みなさんのペースで進めよう。地域のニーズに対応するため、できることからやってみよう。

準備会 02

コアメンバーを集めよう。地域会議を開き、地域の声を拾おう。組織の形を検討しよう。

はじめに 01

地域住民や団体と知り合い、仲間を集めよう。地域の魅力や課題を出し合い、地域の将来への思いを共有しよう。

インタビュー Interview

各校区で活動する3人に話を聞きました。



子どもの居場所づくりに熱心な伊佐さん（写真右奥）。沖縄大学のボランティア部や倉本さんの学校の後輩も加わり賑やかで温かい場所に。

若者が来やすい雰囲気

地域には若者が参加してくれないという声がありますが、若者が参加しやすい雰囲気づくりをさせていただけると嬉しいですね。若者の声に耳を傾けて、ディスカッションが楽しめる雰囲気があるといいですね。若者には、立場が違うかもという遠慮があるかもしれませんが、大人から声をかけ、発言を促していただけると嬉しいです。

きっかけは学校の授業

学校の授業で、地域内に子ども食堂があることを教えてもらい、高校生ボランティアとしてご飯を作ったり、小学生に勉強を教えたりするようになったからでした。そこを運営する民生委員の伊佐さんとの出会いが上間小学校区まちづくり協議会立ち上げへの参加につながりました。



同世代の人たちへ

誰かに支えられて成長している私たちは、親にありがとと伝えたり、次の世代の人たちに何ができるかを教えられたらいいなと思います。学校の先輩たちが私たちに教えてくれたように、身近な子どもたちに寄り添っていくことが大切だと思います。次の世代の人たちにも頑張ればできるかも！と思ってもらえるように、私たちが発信していけたらいいなと思います。

多くの気づきと学びで充実

協議会立ち上げに参加したことで、地域について深く知ることができ、より活性化できたらなと思います。また、大人と一緒に混ざること、学生だけでは気付かなかった視点も学び、さらには、大人たちの前でスピーチも経験し、学校では得られない成功体験を通して、自身の成長に気づくことができました。

子どもに優しく 治安のいいまち

上間小学校区は、福祉施設が充実し、子どもの居場所が多いのも特徴です。育った上間にいつかは戻ってきたいと思っています。



また、校区まち協にはPTAも参加しているので、学校の困りごとなどの情報が入りやすく、そこが強みにもなっています。民生委員や社協、銀行も加わりお互いが補完し合うことで、各団体だけではできなかったことが校区まち協で出来るようになりまし。校区内の自治会同士や、他の団体との情報交換の場にもなり、人のつながりの大きさを日々実感しています。

自治会と校区まち協、両方の会長職を通じて、垣根を越えた活動のしやすさを感じています。お祭りをするにも、自治会の場合は加入していないと参加できないため、人数が不足し困ることがありますが、校区まち協ではその制限がなく、また、小学校区をエリアとしているから子育て世代の協力も得やすく活動する人が飛躍的に増えました。

一緒にやるのがいい

地域のことは

久米に住み始めた時に自治会が発足し関わり始めたのがきっかけです。子育てが忙しく、一時は離れましたが、活動を再開し自治会長に就き、その1年後、天妃小学校区まちづくり協議会の会長にも就任することになりました。

きっかけは自治会



天妃小学校区
まちづくり協議会
山内 京子さん

地域のことを
みんなで考えましょう！

そのために校区まち協があります。自分ひとりでは何をしたいかわからなくても、参加してみてもいいですよ。

スクールゾーンの取り組みで那覇警察署より感謝状



警察や消防との連携を通じて得た信頼によって私たちの取り組みが評価され、那覇警察署より表彰されました。

近隣の琉球銀行の職員さんも朝の立哨にご協力いただいています。

校区まち協全体で議論し、まちを歩いて危険な場所を確認することで、横断歩道設置の提言をするなど、様々なアイデアが実現しています。



曙から東町・西までの西地区が連携して防災に取り組みたいいなと思ひます。西地区は留学生が増え、外国籍の方々が多いですが、今年4月の津波警報時は、問い合わせ先に困り不安な思いをしたようです。地域活動の手伝いを快く引き受けてくれる留学生ですが、経済的な理由から朝食を抜く人もいると知り、今後は彼らに食糧支援もしたいと考えています。同じ地域に住む者として、一緒に協力し合いながら、地域づくりをしていけたらなと思ひます。異文化交流が防災にも繋がると思っています。

防災のまちにしたい

具体的な取り組みとしては、地域のつながりをつくる機能として、

す。

最初は積極的に関わろうとは思っていませんでしたが、悶々としている時間よりは建設的な時間を持てたことは結果的にはよかったです。初めは清掃活動を中心に据えてスタートした組織ですが、今は市民協働をやりたいと思う人、市民協働人材が増えていくことを目標に再スタートしました。関わる人を、①ブレイヤー②サポーター③参加者④マネジメントする事務局と4つに分類すると、校区まち協メンバーが疲弊せず、だいが運営しやすくなっています。

あった中、ついには会長へ

組織運営で悩み紆余曲折

以前はマーケティングの仕事をしており、顧客情報分析や、ビッグデータを扱って顧客関係性マネジメントなどをやっていたんですが、沖縄に移住後、ソーシャルビジネスの取り組みを始めるようになりました。経済合理性のある分野は経験していましたが、すべてに経済合理性があるわけではなく、合理性がないものはどうするの？という疑問から市民協働のあり方を知り、勉強がてら入ったのが初めてでした。

きっかけは勉強のため



金城小学校区
まちづくり協議会
鈴木 圭三さん

あなたの地域への
思いを地域活動に
変える場です。

「こんな地域活動したいな。」でも、ひとりではできないし、お金もかかる。そう思って、最初の一步が踏み出せない時。金城校区まち協に、足を運んでみませんか。



会長職は一番大変だと思います。校区まち協に関しては孤独に對しての対価がないですが、今は自分以上に動いてくれる方がいて、そういう人が現れたのは嬉しいですね。今はそのような人が孤独を感じないように、一緒に寄り添ってあげようと思っています。

人がいるのは嬉しい

一緒に汗をかくてくれる

税金を預かっている行政職員は、パブリックマインドを持っているので事務局に向いていると思います。また、定期異動があり自分でキャリアデザインを描きにくいいため、身につけてきたもので活動できる場所があったらいいなと思ひます。多種多様な部署で得たスキルや経験を地域活動に生かして欲しいです。

行政職員を巻き込みたい

「地域ゆんたく会議」を毎月第3木曜日にともかぜ振興会館で開催し、近況を共有しています。また、地域でやりたいことがある人たちを後押しするための「プロジェクト支援事業」として、地域活動を対象に必要な費用を支援する仕組みを作りました。そのほか、オリジナルの名刺も作成しました。本人にも自覚が芽生え、資格も記載しているため地域に埋もれた人材を発掘、活用できます。どうすれば市民協働が成立するかを追ひ求めています。

協働パートナーシップ セッション1日目

～市民と行政が地域の未来を創る対話の時間～

実践に学ぶこれからの地域づくりのヒント

協働のパートナーである市民と行政が、「協働」について改めて学び、「地域運営組織」についても互いに理解を深め合います。

これからの地域コミュニティのあり方についてともに考えましょう。是非ご参加ください。

10/26(土) 13:30-16:30

参加無料！

★10/27(日)9時～12時は先進地視察報告会と意見交換会もあります！

申込 10月18日(金)までQRより受付

問い合わせ まちづくり協働推進課 ☎861-3846

※場所については、HPをご確認ください。

お申し込みはこちらから▼



講師：櫻井常矢氏
高崎経済大学地域政策学部教授。東北大学大学院教育学研究科後期博士課程修了。博士(教育学)。専門は社会教育学・地域づくり・非営利組織の教育力。現在、総務省地域力創造アドバイザー、総務省地域運営組織に関する研究会委員等を務める。

プログラム

- ・講演～協働について～
- ・グループワーク
- ・講演～地域運営組織について～
- ・グループワーク
- ・櫻井先生総評コメント